

2019年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

2020年 3月 28日

報告者	学科名	デザイン工学科	職名	准教授	氏名	朴 貞淑
研究課題	「国連持続可能な開発目標(SDGs)を軸とする持続可能なコミュニティ創生と次世代の担い手育成」(持続可能なコミュニティ創生Ⅲ)					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表 朴 貞淑	デザイン工学科・准教授		サステイナブル住環境・福祉住環境	総括・調査・分析・提案	
研究実績の概要	<p>国連持続可能な開発目標(SDGs)は、2030年まで世界の全ての国・自治体が最優先で取り組む課題であり、大学は次世代の担い手を育成するミッションが求められている。</p> <p>日本政府は、SDGsの積極的な戦略的展開として、29の自治体を「SDGs未来都市」として採択し、さらに10の自治体をモデル都市として奨励している。</p> <p>岡山県岡山市と真庭市は、[SDGs未来都市]に採択しているが、特に、岡山市は、誰もが元気で学び合い、生涯活躍するまち岡山の推進を掲げている。岡山県は、平成30年～令和2年までの第7期地域包括ケアシステムを策定している。岡山県では、一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦のみの世帯が年々増加し、過疎、少子高齢化が著しく進んでいる。それに伴い、空き地・空き家も増加し、高齢者や障がい者を含む地域住民が住み続けられる生活の質と価値を保った住環境は、ライフスタイルや将来のライフステージの変化に対応出来る持続可能なコミュニティ創りが必要不可欠となる。</p> <p>「持続可能なコミュニティ」は、互いに支え合いながら暮らせるまちであることから、これこそ、持続可能な開発目標11「住み続けられるまちづくりを」に相応でき、産官学民の協働による地域コミュニティを形成することが求められている。持続可能な開発目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」の成功事例となり、さらに、次世代の担い手の育成において、コミュニティを学びの場とした実践教育の成功事例となることから本学は、持続可能な開発目4「質の高い教育をみんなに」のトップランナーとなることが大いに期待できる。</p>					

※ 次ページに続く

研究実績
の概要

そこで、本事業では、高齢化・過疎化が進行する岡山県の状況を踏まえて、地域を構成する各セクターとの関わりに着目し、住み慣れた地域で暮らし続けるためには何が必要なのか、災害に強い地域づくり、共生のユニバーサルデザイン、国連持続可能な開発目標 (SDGs) を軸とする持続可能なコミュニティ創生と次世代の担い手育成の総合的な視点から提案を行った。

本事業は計画に基づいて実施し、その成果として次の3点が挙げられる。

- 1) 前年度の研究から得られた知見より、福祉住環境における生活の質の向上と災害に強いまちづくりの基本的要素として、防災マニュアルの作成の調査を行った。具体的に、共生型ユニバーサルデザイン、アクセシビリティ、ハード及びソフトの両面から対応できる。持続可能な開発目標 (SDGs) の目標3「全ての人に健康と福祉」、目標4「質の高い教育をみんなに」、目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」と対応できる。
- 2) 「SDGs 未来都市」に採択されている岡山県岡山市・真庭市の先進事例研究を行い空き地・空き家など地域資源を活かした持続可能なコミュニティ構築が期待できる。
- 3) 持続可能な開発目標 (SDGs) の17つの目標のうち、目標4「質の高い教育をみんなに」を基軸とし、次世代の担い手育成を行う。座学によるSDGsの時代的背景、ミッションについて重点的に学び、フィールドワークによる現場を知り、ノウハウを身につけさせ、持続可能なコミュニティ創生の成功事例の構築が期待できる。

本研究の成果として、次の3つの発展的適応が期待できる。

- 1) 岡山県の地域資源を活かし、地域の強みはさらに強く、弱みは補われる持続可能なコミュニティ創生が期待できる。
- 2) 災害に強いまちづくり、健康と福祉の持続可能なコミュニティ創生が期待できる。
- 3) 持続可能な開発目標 (SDGs) を活かした教育プログラムを開発し、SDGs を基軸とする次世代の担い手育成の岡山県立大学モデルを構築し、岡山県、全国、アジア、世界に通用する、SDGs のトップランナーとなることを期待できる。



写真：岡山市・真庭市におけるSDGsを軸とする持続可能なコミュニティフィールドワーク